東京スポーツ
第3種郵便物認可

大阪 一斗缶バラバラ遺体事件

現場近くの女性が目撃

不審2人組 深夜に缶を移動？

大阪市天王寺区で3つの一斗缶の中からバラバラに切断された男女2人と思われる遺体が見つかった事件で、本紙は怪しいグループの目撃情報を入手した。2番目の一斗缶発見現場には当初、2つの缶が置かれていたが、後に何者かが1つだけ動かしたとの見方が強まっている。そんななか、缶が移動されたと思われる時期に、付近の住人が不審な男の2人組を見ていた。一方、この一連の不可思議な行動に専門家は「首謀者が近くにいる」と分析した。

遺体の一部が入っていた一斗缶

大阪府警の司法解剖の結果、東高津公園にあった頭部は40～50代ぐらいの男性で、死亡時期は6月前後とみられることが判明した。頭部には殴られたような複数の陥没骨折の痕があったが、致命傷ではなく、死因はいまだ不明だ。その頭とつながっていた可能性が高い背骨が見つかったのが、公園から約100メートル離れた駐車場に近い路上だ。

この2個目の一斗缶の発見現場付近では、7月下旬の夜中に、ワンボックスカーから一斗缶を運び出す男性、運転していた中年女性1人、車内にいた男性の計3人が目撃されている。今回入手した目撃情報は、数日が経過した8月初旬のもの。同じ路上で、再び怪しい男の2人組が目撃されていたのだ。近所に住む30代女性が言う。

「缶が置いてあったところは、以前から犬の散歩で毎日通っていたんです。怪しい男たちを見たのは、1週間ぐらい前の午後11時頃。Tシャツ、短パン姿の大柄でこわもての男が、缶の辺りに黙って立っていたんです。容姿はあまり思い出せないんですが、近くにもう1人男がいました」

8月初旬

午後11時ごろTシャツ短パンの男が缶の辺りにいた。近くにもう一人

この辺りは住宅街で治安も良く、穏やかな場所のため男たちは「かなり浮いて見えましたね。駐車場内に車が止めてあったことも覚えています」と女性は続けた。

この怪しい2人組はワンボックスカーで一斗缶を運んできたグループと同一なのだろうか。そうであるなら、3人組が再度、缶の1つを移動させたとも考えられる。

あまりに不可解な部分が多い今回のバラバラ死体事件。神奈川県警の元ベテラン刑事で「現場刑事の掟」（文庫ぎんが堂）の著者である小川泰平氏は「犯人が本当に遺体を隠したければ、山に捨てるかコンクリート詰めにして海に沈めるでしょう。一斗缶に入れて公園や路上に放置するのは、遺体が発見されることが前提。そうなると個人の突発的犯行ではなく、なんらかの組織が関わっている可能性が高い。まだ生きている人物への見せしめや脅迫が目的なのでは」と分析する。

さらに、何者かが一度置いた一斗缶を移動させた件には「あくまで私の推測ですが、死体を遺棄した首謀者が、窓から缶が見えるマンションに住んでいる可能性があります。自分の部屋から、缶が人目にさらされる様子をじっと観察するためです。男たちに缶を移動するよう指示したのは、より見えやすい位置にしたかったのでは。男2人は近所の住民ではないと思います」（小川氏）。

車を運転していた中年女性が首謀者で、同乗していた2人の男たちはあくまでも命令される立場という図式か。残虐な事件の首謀者が現場近くに住んでいるのであれば、近隣住民の震えは止まらない。（本紙取材班）

2個目の一斗缶が見つかった現場に集まる報道陣

元刑事・小川泰平氏「首謀者が近くで観察している可能性」